

松沢 海外出てわかることはありますよね。私もニューヨークに行った時に、日本のことを説明しないといけないって、説明しようと思うと全然わかっていないなっていうことが結構あって。漆は喋れるんですけど、その奥にあるものとかいろいろ聞かれるわけですよね。それを日本人、自分のこととして、喋れないとだめだなって感じますよね。

松嶺 もともと謙遜する文化なので。何も面白いところないよ、とか。岩手は特に。岩手は何もおもしろいところないよってそんな風に育っているの。アピールするっていうこと自体苦手。

松沢 岩手はありすぎるくらいある。

金野 ありすぎるくらいありますよね。

松沢 なにもない、どこではない。

金野 本当にそう思います。

松沢 そのひとつが漆でもあるんですけど、まだまだ知られていないところはあるの。

松嶺 僕もばんばん作っていききたいですね。

松沢 やっていきましょう。いろんなコラボレーションが、どんどんできていて。漆ってなんでも塗れるので。さっき三田さんが言った Pen もそうですけど。今までそういう発想ができるのにやっていなかったんですね。「japen」の菊池さんが私と会って、浄法寺漆の話聞いて、やりましょうということで、ペンを塗り始めたんですけど。地元にあるものとの組み合わせっていうことだけでもありますし。アートと相性もいいですし。いろんなものを「これ漆塗れるかな？」って見ちゃうんですね。

金野 漆ラバーですね（笑）

松沢 そうですね。でもだいたい塗れちゃうので。

金野 鉄に塗って、とかもありますもんね。

松沢 南部鉄器は漆で最後仕上げていますね。着色の錆止めとして。目立たないですけど。あれは漆がかかせない。

金野 最近改めて思ったのは、今のウイルスがどうのこうの、消毒がどうのこうのって言っているんですけど、もともと殺菌能力がすごいあるじゃないですか、漆って。ってことは食器自体が安価なプラスチック製とかよりは、全然今の時代に理にかなっているものですよね。で、お膳でご飯食べていたじゃないですか。あそこに色とりどりの料理をのせていて、一回一回がアートだったなって。そして体にやさしいっていう。素晴らしい文化だったんだけど、食生活の変化。ハンバーガーを漆の上ののせてもかっこよくないですもんね。そういうのでやっぱり衰退した理由っていうのが、食にもあるのかなって。

松沢 そうですね。プラスチックがどんどんありふれて、食器はそれが作れちゃうようになったら、漆器を作る必要がなくなるっていうことですよね。

金野 逆にそういう抗菌作用っていうのが、一般レベルでもわかってきていないですよね。だから、そういったことを伝えていくことも大事なかなって思いますね。

松嶺 松沢さん、そういうウイルス抗菌作用があるみたいなこと、アメリカのどこかの当局に提出してましたよね？

松沢 去年コロナが始まった時ですね。2月終わりくらいかな。CDCってアメリカの疾病予防管理センターがあって、そこにメールしたんですよ。漆はすごく抗菌性があるので、ウイルスにも効くんじゃないか。それを調べてくれないかって。そうしたら返事が来てですね。所内で共有しますと。まさか来ると思っていなかったんですけど。その後アメリカでコロナが広がっちゃって、それどころじゃないっていう。まだ送ったときは余裕があったんでしょうね。レスポンスがきたっていうのも、日本国内だと無視されるんだけど、アメリカはやっぱりそういう返事を返してくれるのが素晴らしいなと思いましたね。それでまた2回目、3回目ってメールを送ったら、今クロスステラさんに置いてもらっている木製のスタンドがあるじゃないですか。あれもCTCに送ったら、「素晴らしいですね」という返事がまたきました。それだけでもやりがいを感じるというか、アメリカの懐の深さを感じますね。導入はなかなか難しいかもしれないですけど、チャンスはあるかなと思いますよね。

三田 僕らは森林をやっているんですけど、最近木からもプラスチックができるようになってきて。さらにもう一歩進んで、海に落ちて6ヶ月で完全に分解できるという話も出てきたんですよ。ただ最近お話しただくんですけど、素材の原料として出すだけだと、ほとんどタダみたいな形で、あまりモチベーションがわかないという担当者がいるんですよね。そういうときに、アートの力を借りたり、漆の力を借りたりすると、消耗品から残るものになるじゃないですか。せつかくこういう声があるので、時間がかかるかもしれないけど、取り組めたらいいなと思いますね。

金野 生産に取り組んでいる林業の方たちが、もったいないって声を出すこと自体がアーティストよりな考え方ですよね。素晴らしいなと。そういう話を聞いて、オファーを受けたらめっちゃ燃えそうですね。



JR東日本の「地域にチカラをプロジェクト」の一つとして上米内駅をウルシのカフェと工房のある無人駅として2020年4月にリニューアル。「地域交流・情報発信の拠点として集まりたくなる落ち着いた空間」や、「ウルシノキへの興味が生まれる空間」をコンセプトに、ウルシノキにまつわる展示スペースや漆工房を設け、日々活動している。

「上米内駅漆工房・待合カフェ」

岩手県盛岡市上米内中居 20-2

TEL: 019-656-7830